



歯科医・彌勒寺寛之の

視界良好!

前回に続き、今回は私がインプラント治療を選択している理由についてお話しします。

「インプラントは失敗が多い」

「インプラントなんて、まだ信用できない」

「材質が信用できるインプラントはまだない」

私がインプラントをはじめた頃も、今も、こういう否定的な意見を以前ほどではないにしても、聞くことがあります。ただ何度も何度もインプラントのセミナーに行って勉強していくうちに、否定的な意見のほとんどは、インプラントを実際にやったことがない先生の意見だとわかりました。そしてセミナーで講師をしてくださったインプラントの恩師にめぐり会うことで、「インプラントは失敗しない、すごくいいものだ」という確信を、年を経る毎に得ることができました。これなら患者さんに提供できる確信も得ました。

インプラントの生存率は、「10年で90%以上」です。これは、日本国内だけの成績だけではなく、世界レベルの成績です。スウェーデンの医師がインプラントを歯科治療に初めて応用したのは1960年代半ばのことです。それから、すでに40年以上が過ぎています。医療は日進月歩。毎日新しい発見があり、進歩しています。

世界には、約100種類のインプラントメーカーがあるといわれています。各メーカーが治療結果や材質、術式について日々研究しています。インプラントを製造する人たちや、それを患者さんに応用する歯科医たちの努力が、10年で90%以上の生存率という結果をつくってきたのです。

飛行機が登場したとき、「鉄のかたまりが空を飛ぶわけがない、危険だ」と多くの人が叫び声をあげました。ところが、いまや飛行機無しでは人類はやっていけない位の利便性をもたらし、その恩恵

第12回

インプラントのススメ⑥

を受けています。

インプラントは、決してひとときのブームではありません。さらには、これからの歯科治療からインプラントがなくなることは絶対ないのです。飛行機や自動車がなくなることと同様に。

「インプラントはまだ信用できない」

という歯科医は勉強不足以外の何ものでもありません。インプラントの正しい知識を勉強し、正しい術式で埋めこまれたなら間違いなく失う前の自分の歯と何ら変わることなく噛める歯をつくることができます。これは世界中の歯科医が実証済みなのです。

日本の1800万人の入れ歯使用者のうち80%が入れ歯に対して不満をもっていることは前述しました。歯科医が作った入れ歯に不満を持ち、市販されている入れ歯安定剤を使って何とか食べているのです。しかも、満足して使っているわけでもない入れ歯を使うことによって、あごの寿命を縮めているとしたら…

私はインプラントを使って1人でも多くの患者様に噛める喜びをもう一度味わって欲しいのです。そんな気持ちを込めながら、いまこのコラムを書いています。

毎日の健康維持に大切な食事が思うようにできないわけですから、精神的にも不安定で、さぞ憂うつな生活を送っていたことでしょう。そんな生活をインプラントが、充実したものに変えたのです。これこそ世界中でインプラントが増え続けている一番の理由であり、私がインプラントに力を入れるきっかけになったものです。

今回は、歯科医院の選び方、インプラントの種類や治療についてQ & A方式で紹介します。



～著者プロフィール～

みろ齒科院長（2012年10月1日新規開院） 彌勒寺 寛之（みろくじ ひろゆき）

住 所 宇都宮市中央2-4-8 T E L 0120-814-364 (URL) <http://tda86.com>

所属学会

日本口腔インプラント学会 日本歯科審美学会 日本歯周病学会

日本小児歯科学会 日本ヘルスケア歯科研究会

※学会で得た知識を活かして、個人的に無料相談室を開設しました。

お口のことで疑問に思っていることなどがありましたら、お気軽にご相談下さい。

当クリニックのホームページからメールで受け付けています。

（この無料相談室は予告なく終了することがありますので、ご了承下さい。）

